

# ウミガメ保護に指針

愛知県から静岡県にかけて広がる表浜海岸を研究している豊橋技術科学大学（愛知県豊橋市）の研究者や市民団体が連携し、アカウミガメの保護に向けたガイドライン（指針）づくりを始めた。一帯は国内有数のアカウミガメの上陸・産卵地として知られるが、地域や団体ごとに保護や観察の仕方が異なる。そこで、自主的なルールとして指針をつくり、足並みをそろえていく狙いだ。（山本晃一）

## 豊橋技科大・市民団体・高校生タッグ

指針づくりには、同大海岸工学研究室のほか、いずれも表浜海岸の周辺でウミガメ保護に取り組んでいる市民団体の表浜ネットワーク（豊橋市）、あかばね塾（同県田原市）、カレッタ君のふる里を守る会（静岡県湖西市）、桜丘高校（豊橋市）生物部などが参加。来年2月の完成を目指す。

ウミガメ保護をめくっては、環境省もハンドブックで指針を示している。しかし、海岸にはそれぞれ特徴があり、地域によって保護活動への考え方も違うのが実情だ。今回まとめる指針は「県境を跨ぐアカウミガメの保護ガイドライ



ガイドラインづくりを話し合う今村さん（左）ら＝愛知県豊橋市

## 孵化調査・観察方法など提示

ン」（仮称）として、繁殖状況調査のあり方などを盛り込む予定だ。これまでの案では、本来は産卵場所での孵化を見守るのが望ましいという立場から、仮にやむを得ず卵を動かす場合でも、どのような条件が望ましいかなどを提示。孵化調査の手法についても示す。

また各地で行われている子ガメの放流会が、カメの生存率低下につながるなど指摘されていることを踏まえ、環境教育の新たな取り組みとして、自然のままの孵化の様子を少人数で観察する「ナイトツアー」を提唱する予定。

さらに、ウミガメ保護の全国組織、日本ウミガメ協議会（大阪府枚方市）の協力も得て、冊子などの形でまとめ市民団体や行政の参考にしてもらう考えだ。

同研究室の今村和志さんは「地域の枠組みを超えて保護に取り組みたい」と話している。

今回の取り組みについては、表浜ネットワークのホームページ

（<http://www.omotchama.org/>）に紹介している。